

近現代美術に関する総合的研究 (①美02-09-4/5)

目 的

本研究は、多様化する現代美術の動向の調査研究を含め、日本近代美術の研究資料のあり方、研究の手法の開発、研究成果の公開の仕方を研究し、文化財行政に寄与することを目的としている。そのため、具体的には、第1にこれまで未公開の基礎資料の収集整理の上、データ化等の公開にむけた調査研究を行う。第2に資料にもとづく研究協議、論文等の研究成果の公開を進める。

1. 未公開資料の収集整理とデータ化にむけた調査研究として本年度は、下記の4件の調査研究を行った。第1に、黒田家親族宅に伝わった新出の黒田清輝作品の調査、第2に黒田清輝作品および日本近代洋画の重要な作品について、その制作過程を明らかにするために、光学的調査を行った。第3に、笹木繁男氏主宰現代美術資料センター寄贈資料のうち、作家別資料のデータ化を継続的に進め、これを補完する画廊資料の収集、整理を図った。第4に、既刊の『日本美術年鑑』のデジタルデータを校正し、ウェブ上に公開する準備を進めた。
2. 研究協議としては、上記調査にもとづく考察を行い、研究会での発表、協議を行った。

成 果

1. 未公開資料の収集整理とデータ化に向けた調査研究では以下の5件を行った。
 - 1) 2009年11月に黒田記念館での展示公開を条件に寄贈された《芍薬》など5点の作品の調査研究。
 - 2) 黒田清輝筆《昔語り下絵》(東京国立博物館蔵)、鬚光筆《眼のある風景》(東京国立近代美術館蔵)の赤外線撮影による調査を行い、その成果の一部を黒田記念館で「赤外線的眼で見る《昔語り》」(10.2.25-7.10)として展示公開した。
 - 3) 笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理を進め、また、2009年12月に閉廊した村松画廊から同画廊資料の寄贈を受けた。
 - 4) 現代美術資料のうち、画廊からの展覧会案内状の整理のため、データ・カード化に着手した。
 - 5) 既刊の『日本美術年鑑』の美術界年史(1936年から2003年)データをウェブ上で公開するため、想-IMAGINEでの試験運用を行った。
2. 前年度まで継続してきた「昭和期美術展覧会の研究」の研究協議の成果として『昭和期美術展覧会の研究一戦前篇』を刊行した。また、近現代研究協議として、以下を行った。

塩谷純「川端玉章の研究―玉章の“支那画”観」企画情報部研究会 09.7.29

山梨絵美子「黒田記念館の平成21年度受贈作品について―黒田清輝筆《舟》、《芍薬》、《日清役二龍山砲台突撃図》、《林政文肖像》2点」企画情報部研究会 10.1.27

論文等掲載数 4件

塩谷純「川端玉章の研究(二)」『美術研究』399 10.1

田中淳「研究ノート 試論・「新しい女」と「風船を持つ女」―萬鉄五郎《風船を持つ女》の制作背景と表現」『美術研究』398 09.8

山梨絵美子 Beyond Nationalism- an example of Japanese Modern Art, Art History and Nationalism, Seoul Korea, 09.9

山梨絵美子 黒田清輝の《昔語り》と白馬会の歴史主題―記紀神話主題の扱いをめぐる『東アジア美術におけるモダニティー』(韓国) 09.11

研究組織

○山梨絵美子、田中淳、塩谷純(以上、企画情報部)、三上豊、丸川雄三(以上、客員研究員)